

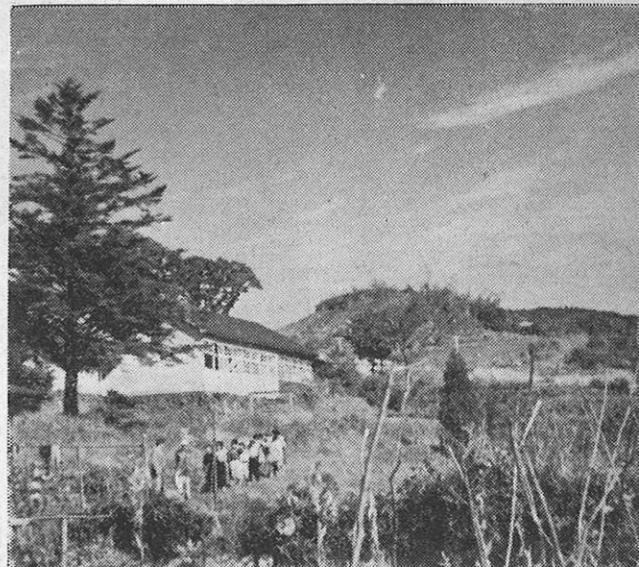
た。シモ部落では皆でお金を出し合つて、谷川の水で自家発電をしていましたが、川の水がこおつたら役に立たないし又、ふだんでも二、三時間ぐらいたしかづく、だんくうす暗くなつて、しまいには消えてしまうような貧しいものでした。』と書いている。

米もなく野菜もなく

畑といつてもないも同然。猫のひたい程の畑にできるものといえば、とうもろこしに小豆くらい。小豆は七月頃雑草の生えたところでもどこへでもバラ／＼と種子をまく。秋になると雑草の間から、小豆がヒヨロ／＼と生えてくるのでこれを収穫するという、全くの粗放栽培である。最近国有林の跡地を借りて開墾始めたが、まだ／＼という段階。食糧の自給自足などとても望めそうにない。

ある奥さんは「ここは畑がないので、米も野菜も全部内牧に買いに行きよりもした。主人は山仕事に出来ませんが、私が一日がかりで、牛ば引いて朝早うから山越えして、歩いて行くと。冬なんか北風はつめだし、日の暮れた外輪山ば、牛の背中に米や野菜ばウセテトボ／＼帰つてくるときやつらかつたですばい。」という。「それでも、いまでは林道のできたけん、そりやあ便利になりました。」とさもホッとした表情。

いまでは、毎月一回各家庭が金を出し合つて小型トラックや三輪車を借り上げこれで全戸の一ヶ月分の食糧や日用品を



(→外観は立派だが、相当痛んでいる深葉分校)

購入していく。この時は一時に現金が出てゆるので、家庭経済は全く大変である。時たま行商人が野菜や魚の干物を売りにくるので、不足分はこの時買ひ足しているという。

便利になつたとはいっても、これが実情。それでもこの部落の人々は「道路のおかげで便利になつた。」と素朴に喜びを語つてくれる。

電灯のお年玉

電灯がついたという話になると、人々の喜びは更に大きく「まさに生活の革命ですよ。」という青年もいる程である。電気導入の話はずつと前からあつたが

た。」という卒直な表現には、都会の子供達が感じることのできない文化への畏敬がじみ出で、いちばん嬉しい程である。

どの家でも無理算段してラジオを買つた。年寄りは「シャバのことがようわか

るよになつた。」という。子供達は分校の黒板に「言葉づかいをきれいにしまし

よう。」と書いて、お互いに注意しあうよ

うになつた。

テレビのある分校

更に大きな喜びは、つい最近分校にテレビが備えつけられたことである。役場の喜びは更に大きくなる。まさに生活の革命ですよ。」という青年もいる程である。電気導入の話はずつと前からあつたが

あつた。

文明へのレジスタンス

だが、ここに皮肉な現象が起つてきた

ところとして存在する「道路」と「電気」

が深葉ではかけがえのない文化的なも

のとなりつており、私達に「文化」の意

義を深く考えさせずにはおかないと強調する。

「僕はテレビの鉄道公安官が大好き

です。」と瞳を輝かす小学二年生……。

「私は『風小僧』の時間が待遠しいです

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な表現には、

このように文化から隔離されている地方

かして、遂に昭和三十二年

十二月三十一日、即ちお

みそかの夜に電灯を灯すこ

とに成功した。明るい電灯

は、部落の人々にとつては

何よりのお年玉となつた。

これまでランプやコエ松の

灯りで勉強していた子供達

に作文を書かせたら、どの

子も、どの子も電灯のこと

を書いた。「電灯の下で勉

強するとともに気持がよく

て、勉強が楽しくなりまし

た。」という卒直な